

16. 工学部

(1) 工学部の教育目的と特徴	16-2
(2) 「教育の水準」の分析	16-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	16-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	16-10
【参考】データ分析集 指標一覧	16-12

(1) 工学部の教育目的と特徴

1. 教育の目的と基本方針

工学部では、確固とした基礎学力を土台に、現在の科学・技術水準を理解し、創意改善しながら工学を応用する能力のある技術者・研究者を養成することを教育目的としている。これは、名古屋大学学術憲章の基本的目標「自発性を重視する教育実践によって、論理的思考と想像力に富んだ勇氣ある知識人を育てる。」を工学の分野で実現しようとするものである。この目的のもと、基礎力、応用力、創造力、総合力を涵養するために、次の方針に沿って教育課程を編成している。

- (1) 科学的な基礎知識と工学基礎の充実
- (2) 基礎知識を柔軟に運用する豊かな応用力の養成
- (3) 専門的な知識の修得のみならず、将来の創造性につながる基礎学力と技術・研究のあり方に対する基本的な素養の養成
- (4) 人文・社会科学等の関連する学問分野についての幅広い視野の確立

2. 目標と方針

平成 29 年度に、従来の 5 学科・13 コースを 7 学科構成(コースなし) に再編した。改組に当たっては、Late specialization に対応するために基礎教育で共通部分の多い分野を統合し、従来の 2 年時でのコース配属を廃止して、十分な基礎学力を獲得したのちに自らの専門分野を選択することとした。また、以下の方針に特に留意した。

- (1) 安全教育、倫理教育、情報セキュリティ教育、知財教育の徹底のための導入教育を充実させる。
- (2) 基礎を重視し、専門系初期の科目(創成型科目)を充実させた教育カリキュラムに変更し、総合力、創造力、俯瞰力を涵養する。

3. 学部の特徴

平成 29 年度に工学基礎教育を重視するとともに専門性と総合性を備えた人材を育成することを目的とした学部及び大学院一体での改組を行い、教育組織とカリキュラムを再編成して時代に即した高度な工学系人材の育成に努めている。工学分野と密接に関係する環境学研究科、情報学研究科、未来材料・システム研究所、未来社会創造機構等の他部局所属の教員も教育に参画・協力しており、多様な教員を確保している。人材育成においては、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と創造力に富んだ「勇氣ある知識人」を育てることを基本理念として、基礎科学の知識の上に立ち、次世代の「工学・技術」を創造する能力を有し、豊かな学識・専門性と、広い国際的視野を併せもった先導的な研究者・技術者を育成する役割を果たしている。

4. 学生受入の状況

推薦入試と前期日程の 2 種類の入学試験を実施している。推薦入試にはセンター試験を課しており、前期日程ではセンター試験、個別試験それぞれの高得点者枠を設けている。また、高等専門学校卒業生を 3 年次編入試験で受け入れている。さらに、外国人留学生や帰国子女を対象に、英語でのみ教授する国際プログラム群(G30)(化学系、物理系、自動車工学プログラム)を開設している。他にも日韓共同理工系学部留学生やマレーシア政府派遣留学生なども受け入れ、学生構成は多様性に富んでいる。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目 1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 4516-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成29年度に、工学を拓くための学力および資質・能力を備え、科学に対する強い興味をもとに社会に貢献する人材の育成を目的として、時代に即した教育組織とカリキュラムに再編成し、従来の5学科・13コースを7学科構成（コースなし）に改めた。それに伴い、各学科においてそれぞれの分野で必要とされる十分な教養と専門知識・技術を習得させるためのカリキュラムを編成し、卒業のための要件単位数を定めた。
[1.0]

<必須記載項目 2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 4516-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成29年度に、本学部の教育目標のより確実な達成のために、従来の5学科・13コースを7学科構成（コースなし）に再編した。Late specializationに対応するために、基礎教育に関して共通部分の多い分野を統合して強化するとともに、従来は2年時に行っていたコース配属を廃止し、十分な基礎学力を獲得したのちに自らの適性・興味に応じて専門分野を選択できるようにした。[2.0]
- 平成29年度の改組にあたり、各学科における教育の基本方針を再設定し、それに合わせてカリキュラムの抜本的な見直しを行った。[2.0]

<必須記載項目 3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 4516-i3-1～2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 4516-i3-3～9）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成29年度に従来の5学科・13コースを7学科構成（コースなし）に再編したことに伴い、学部で定めたディプロマ・ポリシーを実現するために、各学科の教育目的・教育目標を再設定した。また、それに基づいてカリキュラムを見直し、体系的に再構成した。さらに、新カリキュラムに対応したカリキュラムツリーを作成して、各科目の

名古屋大学工学部教育活動の状況

位置づけを明確化した。[3.1]

- 全学共通のコースナンバリングシステム・ガイドラインに従って、改組後の全授業科目にナンバリングを付して、カリキュラムの体系と各科目の位置づけを視覚化した。
[3.1]
- 継続して授業アンケートを実施し、点検結果に基づいた見直しを行っている。第3期には、新たにクロス集計や項目間の相関係数の算出を開始し、より詳細な分析を行っている。さらに、平成29年度に改組を行ったため、改組後に入学した新カリキュラムの学生とそれ以前のアンケート結果の変化には特に注視し、分析を行っている。これらの分析結果は各学科にフィードバックしており、学科でのFDを通じて授業改善に役立っている。例えば、機械・航空宇宙工学科ではアンケート結果に基づいて、新カリキュラムで開設した科目の授業項目の順番を入れ替えるなどの改善を行った。これらの継続的な改善などにより、講義に対する総合的満足度は工学部全体で平均して85%以上を保っている。[3.1]
- 工学部共通科目「工学概論第1」（通称：がんばれ後輩）は、社会の中核で活躍する名古屋大学工学部の先輩を講師に招き、工学人材のロールモデルを示すとともに、勉学の指針を与えることを目的に、1年次生を対象として開講している。学生の社会的・職業的自立を図る能力の涵養に役立っており、平成29年度の改組では外部講師を従前の約2倍の7名に増やし、コマ数や内容を拡充した。[3.3]
- 平成29年度の改組に合わせて、科学技術的内容の発信に必要な論理的考え方と表現手法を教授する「テクニカルライティング」や、近年とみに重要性の増しているデータサイエンス科目として「データ統計解析B」を、工学部共通科目として新設した。
[3.3]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 4516-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 4516-i4-2~29)
<http://syllabus.engg.nagoya-u.ac.jp/syllabus/>
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 4516-i4-30)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 4516-i4-31)
- ・ 指標番号5, 9~10 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成29年度にカリキュラム再編を行い、主体的な学習を促すために演習科目を従前より充実させた。卒業要件に占める基礎科目、教養科目の授業形態は約30%が演習、実験、実習である。専門系科目の卒業要件84~89単位のうち、演習、実験、実習は

名古屋大学工学部教育活動の状況

20.5～60.5単位（うち演習 15.5～42.5単位，実験 4～22単位，実習 0～2単位）であり，必修科目は 48～65単位である。演習，実験あるいは必修科目などの主要な授業科目に対しては，TA を配置し，学生個々の理解度に合わせたきめ細かい教育を進めている。[4.1]

- 教務委員会を通じて，継続してシラバスの整備・充実を進めた。特に，令和元年度には各科目について，カリキュラムの中での位置づけをより明確にし，学生の履修の助けとすることを目的に，全ての科目についてシラバスを点検した。全学の方針を参考にシラバス記入方法に関する工学部としてのガイドラインを作成し，教授会での教務委員長による詳細説明を経て，全教員にシラバス修正とセルフチェックを求めた。また，各学科の教務委員が修正された結果を確認して，必要に応じて再修正を依頼するなどした。このことにより，工学部の教育の3つの方針に沿って構築された各学科のカリキュラムの中における各科目の位置づけを再確認し，学生にとってより分かり易いシラバスに改定するとともに，学生の主体的かつ能動的な学修を促す記載内容を充実させた。[4.4]
- 工学部専任教員に加え，他部局等からも教育担当教員が参画して教育に当たっている。平成 30 年 5 月 1 日の工学研究科所属で工学部の教育研究を担当する教員は 319 名，他研究科・研究所等所属で工学部の教育研究を担当する教員 101 名，総数 420 名の教員が工学部の教育研究にあたった。また，外国人や企業等での実務経験のある教員が全体の約 25%であり，多様な経験を活かして教育にあたっている。[4.4]
- 産業界の研究開発の動向紹介や，知財・経済関連の教育のために学外から非常勤講師を採用している。平成 30 年度に採用した非常勤講師は 232 人，2,888 時間であり，この採用時間数は，総授業時間の約 7%である。[4.4]

<必須記載項目 5 履修指導，支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 4516-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 4516-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 4516-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学生支援の状況が確認できる資料（別添資料 4516-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 29 年度のカリキュラム再編を機に，工学分野で必要とされる社会的・職業的自立を図る能力をより一層涵養するためにキャリア関連科目の見直しを行った。特に，「工学概論第 1」は，各界の中核で活躍されている名古屋大学工学部の卒業生を講師に迎えて 1 年次生を対象として開講しているが，工学人材のロールモデルを示すことで学生がその後の勉学の指針を得る効果が大きいため，改組ではコマ数及び講師数を約 2 倍に増やして内容を拡充した。その結果，改組前に比べて受講者が 2 倍以上に増加した。この科目を含め，平成 30 年度はキャリア関連 7 科目をのべ 935 名の学生が受講し

た。[5.3]

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 4516-i6-1～2）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 4516-i6-3～6）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 4516-i6-7～8）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成30年度に、全科目を対象に成績分布調査を行った。その結果は全学科にフィードバックし、成績評価に偏りが見られた一部の科目については事情を調査するとともに、教務委員会を通じて改めて全教員に成績評価の厳格化を徹底した。[6.1]
- 工学部ではこれまで成績評価に100点満点による数値を評価基準とする5段階評価を用いてきたが、令和元年度の全学での決定を受けて、到達目標に照らして明文化された到達段階に応じて成績を評価する、国際通用性の高い6段階評価に移行することを決定した。そのために、教務委員会を通じて改訂の趣旨や新しい評価基準の詳細について周知し、教授会でも全教員を対象に新基準に沿ったシラバスへの成績基準の適切な記入方法などを中心に重ねて周知を徹底し、令和2年度からの新評価基準への移行の準備を進めた。[6.2]

<必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 4516-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長などの組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 4516-i7-3～4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成29年度に、工学を拓くための学力および資質・能力を備え、科学に対する強い興味をもとに社会に貢献する人材の育成を目的とした教育組織とカリキュラムの再編成を行い、従来の5学科・13コースを7学科構成（コースなし）に改めた。それに伴い、それぞれの分野に必要とされる十分な教養と専門知識・技術を習得できるようにカリキュラムを見直し、それぞれの学科にて卒業に必要な要件単位数を定めた。[7.1]

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 4516-i8-1）
- ・ 「毎年度の入学者選抜確定志願状況」（別添資料 4516-i8-2）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 4516-i8-3）
- ・ 指標番号1～3，6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 従前より高等専門学校卒業生を3年次編入で受入れてきたが、例年優秀な学生が編入してきており、また普通高校からの入学者にとっても異なるバックグラウンドを有する学生の存在がポジティブな刺激を与えるなど、多様性の観点からも良好な影響をもたらしている。そこで、この数年間の学生収容定員充足率の推移に基づいて慎重に検討した結果、令和元年度に各学科1名ないし2名の定員増を行うことを決定し、令和2年度から適用することとした。[8.1]
- 国際的に活躍できる人材を育成するため、外国人留学生及び帰国子女生を対象とした英語でのみ教授する国際プログラム群（G30）を開設している。その入試では、年複数回インターネットを利用したアドミッション入試を行い優秀な入学生の確保に努めている。出願倍率は年々増加傾向にあり、2019年度の工学部プログラムの合格率はいずれも5～6%と狭き門であり、優秀な学生を確保している。[8.1]
- 私費留学生の学部研究生への応募を、従来は志願者が個々に各教員に受け入れの可能性を確認したうえで志願書を提出していたのを改め、令和元年度末より一元的に工学部国際交流室にインターネット出願することに変更し、そのためのシステムを構築して運用を開始した。出願プロセスの効率化による志願者増が見込まれるとともに、工学部国際交流室にて一元的な事前審査が可能となり、受け入れ教員の負担軽減にもつながるものと期待される。[8.1]
- 女子学生の割合が工学部では高くないことが以前よりの課題であるが、その一因として、工学に対する社会的イメージが女子生徒に受験を躊躇させている面が考えられる。そこで、オープンキャンパスや出張講義などで、工学の様々な場面で女子学生が実際に活躍している姿などを積極的に紹介してきた。結果として、第3期においては女子学生の割合に改善が見られ、2016年度の8.8%から2019年度は10.1%に増加した。[8.1]
- 過去数年間の各種入試における辞退者数を詳細に調査し、より厳密に合格者数を設定した結果、定員に対する入学者の充足率が100-105%と、適正な規模で推移した。[8.2]

<選択記載項目A 教育の国際性>**【基本的な記載事項】**

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 4516-i4-30) (再掲)
- ・ 指標番号3, 5 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- グローバリゼーションを加速するための運営体制の強化のため、平成29年の改組における重点分野である化学生命分野及び物質科学分野に外国人PIを雇用した。[A.1]
- 工学部の国際交流室を中心に、正課カリキュラムとは別に、希望者に対して実践的な英語教育を行っており、第3期にはその拡充・改善を行った。具体的には、第2期から行っていたTOEFL講座の内容を見直し、平成29年度からは英語に堪能な外国人留

学生を TA として、少人数に分かれての Speaking を中心とした内容に変更した。さらに、平成 31(令和元)年度から、新たに IELTS 向けの Speaking & Writing 講座を開始した。また、日本人学生向けの海外留学説明会を継続的に開催し、日本人学生の海外留学を支援している。[A. 1]

- 工学部国際交流室に工学部共通教員として講師ポストを期限付きで措置していたが、令和元年度末に任期満了となるのを受け、国際教育や国際交流の重要性に鑑み、引き続き講師ポストを工学部共通教員として措置することとし、その担当教員を公募により採用した。[A. 2]
- 全学で令和元年度より開始した学部 3 年生の TOEFL-ITP テストの受験を工学部学生に積極的に促した結果、全学で最も受験率が高かった。成績の分析結果は教務委員会を通して各学科と共有しており、専門課程における今後の英語教育に活用する予定である。[A. 1]

<選択記載項目 B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- (特になし)

<選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 教授会（年 6 回開催）において、FD を目的とした講演を随時実施して教育の改善に資している。第 3 期においては 1 年あたり 2～4 回開催した。[C. 1]
- 学期ごとに実施している講義アンケートの集計結果を、学部教育部会での分析結果とともに各学科にフィードバックし、各学科ではその内容を共有して教育改善に役立てている。[C. 1]

- ・ 教授会での FD 関係講演会（平成 28 年度～令和元年度）（別添資料 4516-iC-1）

<選択記載項目 D エンジニアリング教育の推進>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 社会的・職業的自立を図る能力を涵養することを目的に、工学部全学科共通科目とし

て開講している「工学概論第1」（通称：がんばれ後輩）を，平成29年度のカリキュラム再編に合わせて内容を拡充し，コマ数を約2倍に増やして講師も従来の4名から7名に増やした。この講義では，社会の中核で活躍する名古屋大学工学部の先輩を講師に招き，1年次生を対象に，将来の夢や勉学の指針を与えることを目的として実施している。[D.1]

- ・ 「工学概論第1」年度別受講者数（別添資料4516-iD-1）

<選択記載項目E リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料4516-iE-1～4）
- ・ 指標番号2，4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 名古屋大学航空機開発グローバルリーダー養成講座を学術研究・産学官連携推進本部の協力を得て開講し，社会人の受講生を受入れている。平成28年度から令和元年度までの4年間の社会人受講者数は107名である。[E.1]
- 橋梁長寿命化推進室において，臨床型の橋梁の維持管理技術者の養成を目的に，基礎コース・検査点検コース・診断評価コースの3コースの研修を実施し，社会人の受講生を受入れている。また，これら常設の研修に加え，オーダーメイド研修も行っている。各年度の受講者数は，平成28年度40名，平成29年度32名，平成30年度30名，平成31(令和元)年度25名である。[E.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目 1 卒業（修了）率，資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 4516-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 4516-ii1-2）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業研究の成果が高く認められ，平成 28 年度 14 名，平成 29 年度 15 名，平成 30 年度 13 名の学部学生が，それぞれ学会から賞を受けており，高い水準の教育が行われていることを示している。[1. 2]

<必須記載項目 2 就職，進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 8割以上の卒業生が大学院へ進学している。これは，学部教育で養われる専門基礎力に加え，大学院教育のより高度で独創的な研究を通して培われる専門応用力や総合力を持つ人材を求める社会的要請に応えた結果である。一方，第3期には年々わずかながら学部卒業後に就職する学生の割合が上昇する傾向が見られた。これは，近年は好景気・人手不足であったことも一因だが，工学部で実践している社会的・職業的自立を図る能力を涵養する教育が，早くに社会に目を向けさせる効果をもたらしていることも理由と思われる。[2. 1]

<選択記載項目 A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 4516-iiA-1～3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 継続的に全学生を対象に卒業時にアンケートを実施し，学習の達成度や満足度などを調べている。平成 31 年 3 月に卒業生 753 名を対象に実施し，有効回答数 682 を得たアンケート結果によれば，工学部 4 年間の教育で「基礎力」，「応用力」，「創造力・総合力」が身についたかとの設問に対し，肯定的な回答はいずれも 75%以上（基礎力：85.9%，応用力：82.4%，創造力・総合力：75.8%）であった。また，それらの資質の形成には，「基礎力」は全般的にすべての科目が，「応用力」と「創造力・総合力」では専門系科目や卒業研究が重要な役割を果たしていると認識している様子がわかる。さらに，「名古屋大学への入学を友人，知人，後輩，関係者に勧めますか」との問いには 88%以上から肯定的な回答を得ている。[A. 1]

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（なし）
意見聴取のアンケート等実施していない。

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（なし）
意見聴取のアンケート等実施していない。

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<選択記載項目D 学生による社会貢献>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 理系女子学生のコミュニティである「あかりんご隊」が、出張理科教室、科学の祭典、名古屋大学オープンキャンパスなどで、子どもたちや女子高校生などに科学の面白さを伝える理科啓発活動を行っている。このことにより、特に女子生徒に工学に対する関心を高める効果が期待される。[D.1]

- ・ 理系女子学生コミュニティあかりんご隊ホームページ（別添資料 4516-iiD-1）

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ ■部分の指標（指標番号8，12～13）については，国立大学全体の指標のため，学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。